

公益社団法人 広島県社会福祉士会主催  
2022年度 認定社会福祉士対応 災害支援活動者養成研修

# 支援に赴いた立場から I ～災害ソーシャルワークにおける 積極的ニーズ把握・アセスメントの実際～ (講義・演習)

公益社団法人日本社会福祉士会『2016年度災害支援活動者養成研修』資料より

1

## 講義の流れ

1. 被災地で行った積極的ニーズ把握(アウトリーチ)の実際
2. 演習① 訪問準備を行う
3. 演習② 面接時の対応
4. 演習③ 活動拠点に戻って
5. まとめ

2

---

## 1. 被災地で行った積極的ニーズ把握(アウトリーチ)の実際

3

## 支援活動の概要①

---

【期間】2016年9月1日～9月6日

【場所】にしはら地域包括支援センター  
(主任介護支援専門員・社会福祉士)

【時間】9:00～17:00

【内容】災害時要援護者リストに基づく実態把握  
過去のアセスメントシートの情報整理…など

4

## 支援活動の概要② ～活動期間の流れ～

1日目 前任者からの引継ぎ→1日行動を共にする

2日目～5日目 ペアの活動支援者と活動

- ・要援護者リストに基づく実態調査
- ・アセスメントシートの整理と入力
- ・その他包括業務の支援
- ・活動内容を日誌へ記録

6日目 後任者への引継ぎ→1日行動を共にする

5

## 支援活動の概要③ ～1日の流れ～

9:00～ 9:30 現地包括職員と1日の動きを確認

9:30～12:00 訪問面接による実態把握(仮設住宅・自宅)

- ・会えない場合も、近隣の方へ状況を聞き手掛かりを得る動き

12:00～13:00 昼休憩

13:00～16:30 訪問による実態把握

- ・情報交換会議(週1回開催)への出席(記録担当)
- ・サロン(月1回開催)への参加

16:30～17:00 情報整理、現地包括職員へ1日の活動を報告

6

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 1 応急支援活動期:初期対応

避難所および被災した自宅で生活する要援護者をリストに基づき訪問し、生活ニーズを把握

【目的】①新しい利用者の発見

②可能な限り早い段階で、従来からの利用者のモニタリング

- ・安否確認を含めた生活ニーズの変化
- ・支援計画の修正の必要性の確認・判断

③地域の情報把握

- ・生活に密着する従来の社会資源の倒壊状況
- ・生活環境の変化

7

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 1 応急支援活動期:初期対応

◎具体的内容:個別支援

- ・アセスメントシートに基づく聴き取り調査
- ・福祉避難所へのご案内 ⇒ スクリーニング
- ・福祉関係サービス調整の手続き ⇒ サービス調整
- ・その他社会資源の紹介等 ⇒ 情報提供

一時的に増大する福祉ニーズに、支援者自身も被災していることから、同一専門職による応援の手(マンパワー)が必要

8

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 1 応急支援活動期:初期対応

#### ●留意点

- ・現地職員を休ませるために、現地職員の指示により、その仕事をあくまでも一時的に肩代わりする。
- ・現地の支援者による支援が円滑に継続していくよう、対応方針等記載した記録物の整理、申し送りに配慮する。
- ・生活用品の不足、健康管理を中心に、本人の生活能力をアセスメントする。避難所での安全確保、継続的に生活が可能か、災害直後の精神的ダメージへも目を向ける。

9

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 2 復旧・復興支援活動期:避難所から仮設住宅に転居直後

生活の場が変わるタイミングでアセスメント

- ①新しい生活への適応力・対処能力と健康状態
- ②新たなニーズ

10

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 2 復旧・復興支援活動期:避難所から仮設住宅に転居直後

#### ◎具体的内容:個別支援 + 地域支援の準備

- ・アセスメントシートに基づく聴き取り調査
- ・すぐに対応すべきことがあれば、現地包括へ情報を集中させる。
  - ⇒ 現地包括の、個別地域ケア会議開催の後方支援
- ・データとして地域の課題を集積、分析の支援を行う。
  - ⇒ 地域の課題を、現地包括がとらえやすくなる。

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 2 復旧・復興支援活動期:避難所から仮設住宅に転居直後

#### ●留意点

- ・本人が「大丈夫」と言っても、環境の変化がもたらす精神的な変化に留意し、今後も現地包括が継続的にかかわることができるようにつなぐ。

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 3 生活再建過程での定期的なモニタリング訪問

仮設住宅転居後、半年一年の定期的な訪問

◎具体的な内容:個別支援 + 地域支援へのつなぎ

復旧・復興支援活動期とほぼ同様

- ・本人に自覚がなくても、客観的に見て、体力の低下やお酒を飲む機会が増えた、家にいることが多くなった、訪ねてくる人が少なくなり会話をしない日があるなどの変化をつかむ。

●留意点

被災前の生活との変化にも着目。気を張って精神的に無理をしていないか配慮しつつ、

“いま”の生活全体を見つめること

13

## 被災地で行う積極的ニーズ把握(アウトリーチ)

### 4 その他

- ・【災害支援アセスメントシート】(演習一⑥)の資料を準備してください。
- ・1週間毎に異なるメンバーによる支援であり、申し送ったケースへの支援がどう展開されたかは分からない。⇒現地主体だが、支援者としてのモニタリングは課題！
- ・ミクロ・メゾ・マクロの視点を持った側面的支援を継続していくために、個別課題の集積から地域の課題の抽出までの方法は、現地包括とともに模索するところに、外部からの同職種の支援者の存在の意味があるのではないか？
  - ⇒ピアサポートからスーパービジョンあるいはコンサルテーション等、時間とともに変化する現地のニーズに応える活動展開を！

14

---

ここで、アイスブレイク・・・

- ◎ 所属都道府県士会
- ◎ お名前
- ◎ あなたの地元の“推し”を教えてください。



---

## 2. 演習① 訪問準備を行う

## 演習① 訪問準備を行う

---

【情報1】(演習①)の資料を準備してください。

あなたが派遣された社会福祉士Aだとしたら、この時の訪問で求められている役割はどのようなものだと考えますか？

また、その役割を遂行するために、どのような情報やツールを持参しますか？

## 演習① 訪問準備を行う

---

- ・要支援1の夫の被災前の基本情報(演習⑥)
  - 了解を取ってコピーまたは持ち出し
- ・岩手県弁護士会ニュース(演習④)
- ・日本社会福祉士会のニュース(演習⑤)
- ・町の災害対策本部が定期的に発行している「避難所への情報提供」
- ・尋ねるお宅の住宅地図
- ・災害支援アセスメントシート(演習⑥)

---

### 3. 演習② 面接時の対応

19

### 演習② 面接時の対応

---

【情報2】(演習一②)の資料を準備してください。

あなたが派遣された社会福祉士Aだとしたら、生活概況の聴き取りにあたり、どのような対応をし、その場を後にしますか？

20

## 演習② 面接時の対応

基本姿勢:相手のペースに合わせ、相づち、質問、感情の受け止め、理解、共感、傾聴

- ・保健師へつなぐ必要性の説明と提案 → 了解を得る
- ・現地包括と相談したうえで、両親をしばらく福祉避難所へ移っていただく調整ができることを説明・提案 → 了解を得る

☆説明・提案・同意を取り付けるためには、訪問に赴く前に予測を立て、現地包括職員と説明や提案の方向性をするあわせておく必要がある。

☆福祉避難所の最新の空き情報も備えておく必要がある。

21

## 【参考】アクティブ・リスニングの基本 ～相手の話を自然に引き出す「聴き方の技術」～

- ・「聞き役」に徹する
- ・話の主導権をとらずに、相手のペースに委ねる
- ・話を途中で妨げない
- ・相づちを打ったり、質問を向ける
- ・善悪の判断や批評はしない
- ・相手の感情を理解し、共感する
- ・相手のニーズを読み取り、確認する
- ・安心させ、サポートする

『災害と心のケアハンドブック』デビッド・ロモ著 (株)アスク・ヒューマン・ケア第2版2011より

22

---

## 4. 演習③ 活動拠点に戻って

23

## 演習③ 活動拠点に戻って

---

【情報3】(演習一③)の資料を準備してください。

あなたが派遣された社会福祉士Aだとしたら、何をどのように報告しますか？

※相手は、同職種・社会福祉士であるとは限りません。

24

## 解説

【情報4】(演習一③)の資料を準備してください。

- ◎個別課題（ミクロ）への対応から、地域課題（メゾ）への対応へ
- ◎現地のソーシャルワーク実践をサポート

25

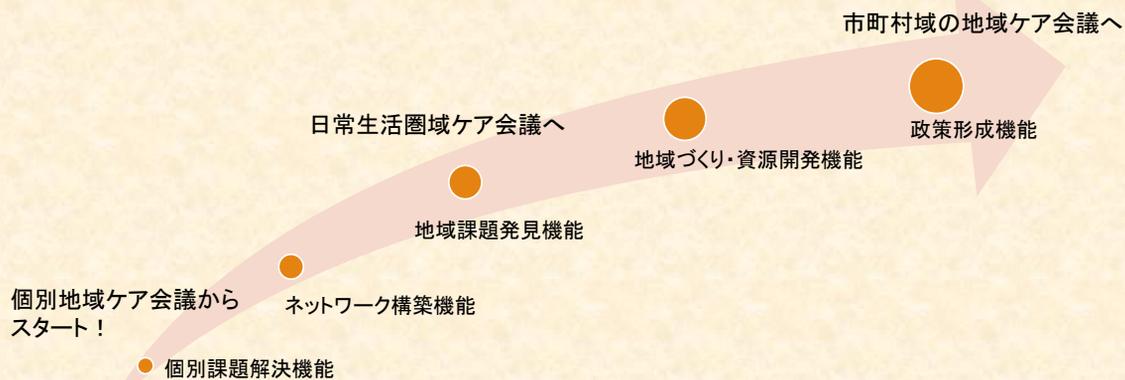
## 解説

災害時においても、ソーシャルワークの展開過程は同じ！

- ・ 対応方針の打ち出し
- ・ 本ケースのモニタリング
  - 現地包括が主体であるが、継続的に応援に入った支援チームがモニタリングを行うことも想定した、支援チーム内の申し送り記録も重要
- ・ 引き継いだチームでのモニタリングの結果、長男の疾患の悪化、イライラ感、介護ストレスの増強が見られた際、虐待予防的視点での「個別地域ケア会議」「日常生活圏域地域ケア会議」「市町村域地域ケア会議」の開催支援も必要（現地包括の業務をサポート）

26

## 【参考】地域ケア会議の目指すもの（機能）



27

## 5. まとめ

28

## 【参考】 DPAT活動マニュアルより 活動の三原則 ～3つのS～

---

**S u p p o r t** : 名脇役であれ

被災地域の支援者が主体であり、その応援を行う。

**S h a r e** : 情報共有と連携

DPAT活動本部、他の医療チームとの情報共有と連携を行う。

**S e l f - s u f f i c i e n c y** : 自己完結型の活動

被災地域に負担をかけない自立した活動を行う。

29

## 日本社会福祉士会の災害支援における基本的な考え方

---

- (1) ソーシャルワークを発揮する支援であること。
- (2) 被災地が主体となる支援であること。
- (3) 終了を見据えた継続的な支援であること。

皆さんの思いが、少しでも現地の支えになりますように…

お疲れさまでした。

30